

『経産省の山田課長補佐、ただいま育休中』から7年、変わったこと、変わらなかったこと

国際医療福祉大学大学院

匿名希望（教員）

山田先生。はじめまして。私は、先生のことは、メディアで、官僚ではじめて育児休業をとられた男性と話題になられたので、もちろん存じ上げていました。また、私は、母性看護の教員なので、男性からみた育児休業とはどのようなものなのか、是非、お聞きしたいと思い、今日が来ることを楽しみにしていました。また、先生の話術の巧みさに驚き、90分の講義があつという間に過ぎてしまい、まだまだお話を聞きたい余韻が残りました。

私は、結婚が遅く不妊治療をしましたが、子どもには恵まれませんでした。育児というのは大変と思いますが、欲しくてできなかった人間からすると、反対に羨ましかったり、思いは複雑です。

先生の、育児休業に入ってからカルチャーショックは楽しく聞かせて頂きました。私の夫にも聞かせたいくらいです。私も共働きで、夫は、大学の教員をしています。たぶん先生と同じ大学の卒業だと思っています。私は、専門学校で教員をしています。

私は、4月から仕事の他に、大学院生となりました。今までよりも、さらにハードな生活です。

夫は、男兄弟で、母親に大切に育てられているので、家事は一切出来ません。ご飯は、お米1合なら、お水は1.2倍と教えたり、洗濯ものの干し方やたたみ方など、1から教えないと出来ないありさまです。さほど多くのことは期待できませんが、それでもやっておいてくれるとありがたいと思います。

なぜ、女性は、男性と同じようにフルタイムで仕事をしているのに、家に帰ってから家事業務を女性がやらないといけないのか？と、本当に思います。ある意味、不公平です。

私の夫が子どもの頃は、家庭科教育は、男子は授業科目ではなく、男子は大工仕事のような科目をやっていたように思います。「性別役割分業」が濃い時代に育っています。それが、男女共同参画社会や、男女平等などと言われて、戸惑う年代なのだろうと思います。

先生が、育児を楽しめたように、男性も家事を楽しめるようにできないものかと思うのですが、家事は、子どものように反応がないぶん、達成感や充実感が少ないのだと思います。先生は、ビデオをみたら、お料理も作るし、洗濯も掃除もされていて、先生は、どこで覚えたのかと思いました。あのビデオも、私の夫に見せたかったです。夫は、食卓に座れば食べるものが出てくると思っていて、時折、腹が立ちます。

しかし、今は、夫の教育期間だと思い、ご飯が炊けるようになった。洗濯干し、洗濯ものをたたんでしまうまでができるようになったので、今後は、お茶碗洗いや、アイロンがなどできるようにステップアップさせながら教育しようと思います。夫のよいところは、私の教えに文句をいわずにやる。というところと、私が、大学院の講義などで、分からないことを聞くと教えてくれるところです。夫は、よいところもたくさんあるので、お互いが生活がしやすいように、お互いが、生活に不満を持たないような、無理のない生活を考えて行きたいと思いました。

最後に、先生から、頂いた資料は、私のこれからの学生への講義に使えるので、データーを使わせて頂きたいと思いますが、よろしいでしょうか？看護師の世界も変化してきています。かつては、ほとんど男子学生などいなかったのですが、今年の1年生は40人定員に8名が男子学生です。看護師も、男性の職業と認知されています。「育メン」や「育児をしない男は、父とは呼ばない」とか、私は、授業で話していますが、レポートを書かせると「育児をしっかりとやりたい」と書いてくる男子がほとんどです。時代も、トップを走る山田先生がいて、確実に変化してきていると思います。

今日は、本当に、たくさん笑いました。先生、ありがとうございました。また、何かの機会に、夫を連れて講演等に参加できればと思います。